

ガラスカーテンウォールの表現プロセス

40年この職業を続けていますが、ガラス素材の表現は未だに難関の一つです。その絵の使用目的によって描き方はいろいろありますが、その表現の考え方の根本は同じです。ここではその一例として、制作プロセスを解説させていただきました。



+

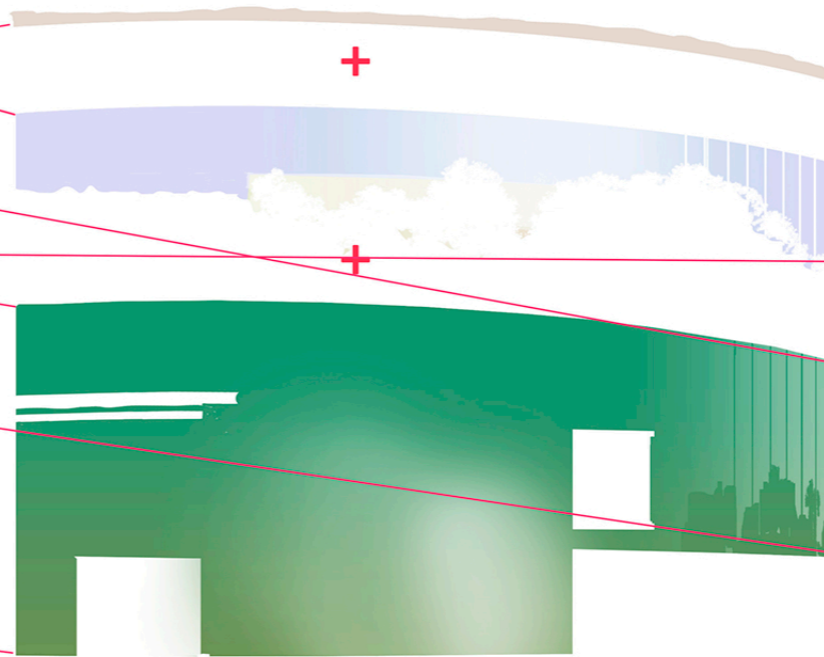


=



室内の様子を描きます。通常では室内は奥行き、深みを出すためもっと暗く描くのですが、本件では室内がしっかり見えて、かつ正確で細かな表現要求がありましたので、明るく丁寧に描き込んであります。

室内の仕切りや人物、木スパンドレル、方立て裏の木の化粧柱を描き入れます。



「底」の映り込み・・・ガラスの存在表現
ガラスの透明感表現

*レイヤーモードは[乗算]モードで、色はガラスの向こう側にある物や室内照明を意識して決めます。影の表現ではありません。

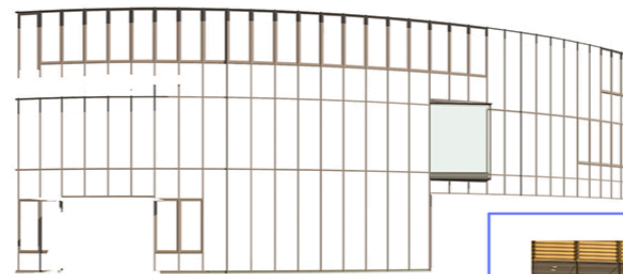
「空」や「樹木」の映り込み・・・
ガラスの存在表現（反射）

*レイヤーモードは[通常]モードで、不透明度を調整し、レイヤーマスクで樹木の映り込みを切り抜きます。色は1色ではなくガラスの向こう側の色を意識して変化させます。

ガラス自体の色・・・

わずかなガラスの存在表現
ガラスの透明感表現

*レイヤーモードは[通常]モードで、不透明度を調整（作例では15%）。色は1色ではなく視線の角度を考えて濃淡を変化させたり、レイヤーマスクを使って調整します。



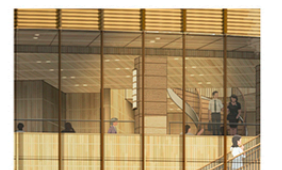
カーテンウォールサッシフレームを描き入れる。出窓部分も描き加えます。



+



=



*ガラスの中を暗く表現し過ぎてしまった場合の一手間。

レイヤーモード「オーバーレイ」のレイヤーに色を載せ効果的に使うことで室内の明るさ、暖か味が出せます。